

地元を楽しむ

北見の魅力、集めました

トピック

- 01 留辺蘂自治区
- 02 北見・常呂自治区
- 03 端野自治区

KITAMI-CITY LIFELONG LEARNING UNIT

TAKE FREE

留辺蘂 自治区



道の駅「おんねゆ温泉」内にある「北の大地の水族館」は、北海道に住む巨大な淡水魚「イトウ」、冬になると凍る水槽と氷の下で生きる魚たち、地元の温泉水を使った水槽など、ここ留辺蘂ならではの展示が見られる、工夫と遊び心たっぷりの水族館である。

「スタッフも展示物」と話す山内館長のもと、来館者とスタッフの距離が近いことも特徴の一つ。名物となったツイッターや交流カードで来館者とやり取りをしており、常連の地元の方もいる。「地域の方々に水族館のコアなファンになってもらい、繰り返し来てもらいたい」という館長の思いが実現している。

氷の下での魚たちの暮らしや、イトウの産卵についてなど、ここでしか聞くことはないであろう興味深い話をしてくれる館長。その口ぶりからは、魚愛・水族館愛がにじみ出ている。

「館長が出てくるボタン」も設置されている。知識豊富なスタッフによる愛にあふれた解説を聞けば、ファンになること間違いなしだ。

「木材のまち」留辺蘂ならではの体験ができるのが、「クラフト体験工房」。売店でキットを購入して工房に持ち込めば、誰でも気軽に木材加工体験ができる。体験料は無料だ。大きな機械で切ったり穴をあけたりするから難しいのかと思いきや、インストラクターが丁寧に教えてくれて、意外と簡単に感じる。15分程度で、木のあたたかみを感じられる手づくりおもちゃが完成する。

キットには水族館にいるイトウやピラニアなどもあり、先ほど見た魚を家に連れて帰れるのも嬉しい。ぜひ、水族館とセットで利用してほしい。



北見・常呂 カーリングホール

体験に伺ったアドヴィックス常呂カーリングホールでは、カーリングの道具を持っていなくてもゲームが楽しめるよう、道具や靴のレンタルができる。私たちが訪れた日は、あの有名なロコ・ソラーレや北見工大のチームが練習していて、その横で初心者にはよちよち歩きから始めるという、なんとも北見らしい距離の近さであった。

片足にカバーをつけて氷の上を歩くだけで足がつりそうになったが、本番はこれから。最初はストーンとブラシを手に、投げる形をとって滑る練習から始める。案の定、無様に転げる筆者。投げるところまで一向に辿り着かない。

向こうのレーンでは工大やロコ・ソラーレの方々が華麗に滑り、ストーンを投げている。にわかに湧き上がる尊敬の念。転びすぎて床につくだけで痛い膝。冷たくなる手足。すると急にさわやかな香りがしてきた。振り返るとそこにはミカンを食べながら談笑するロコ・ソラーレ。あれは…噂のもぐもぐタイム!!

その後、なんとか転ぶことはなくなるまで教えてもらい、ブラシで氷をこする体験もさせてもらった。こちらハードであるが、ストーンを目掛けた場所に入れたときは快感なのだという。いつかその快感を味わってみたいものだ。

ゲームまでは辿り着かなかったため「カーリングをした」と言えるのかどうかは怪しいところであるが、とりあえずカーリングホールに足を踏み入れて道具を持ったことは確かである。だから今度地元に戻ったときには、「ロコ・ソラーレの隣でカーリングしたんだよ」と自慢してこようと思う。きっとみんなが「北見、いいなあ…」と思ってくれるはずだ。



昨年オープンした「アルゴグラフィックス北見カーリングホール」にも、用具の貸出や体験メニューがある。北見の中心近くに位置していることもあって、家族や友達と気軽にカーリングを楽しむことができるホールだが、ここでできるのはカーリングだけではない。

このカーリングホールでは、2月にギターのコンサートが開催された。カーリングホールでコンサート?と首をかしげる人も、一歩ホールに足を踏み入れれば、「なるほど」と納得するだろう。座り心地の良い椅子やテーブルが置かれたロビーは、カフェのようなおしゃれな空間なのである。

こじんまりとした空間で聴く演奏は、さながらサロンコンサートのよう。ガラス越しにカーリングストーンが滑る様子を見ながら、クラシック音楽の生演奏を聴く。こんなコンサートが開催できるのは、北見だけに違いない。

今後も、カーリングホールを使った様々なイベントを計画中とのこと。地域に愛されるカーリングホールになっていくのが楽しみである。

編集者コラム



しば 柴
めぐみ 恵

今年の冬が終わったときに、家の裏に超巨大水たまりが出現しました。鳥たちが水浴びをしにやってきたり、その横をキツネが横切ったりして、水面に木の影が映る様子は、まるで森の中の湖のようです。そのうちに、鳥たちが運んできた微生物や小魚が棲み付いたり、キツネが運んできた植物の種が根をはり花を咲かせたりして、ご近所でちょっと話題の癒しスポットになることでしょう。夕日が反射してきらきらする湖面を眺めながら、カップルたちが愛を語り合うことでしょう。冬になると分厚い氷がはり、子どもたちがスケートをしに来ることでしょう。そんな想像をしばらく楽しんでいたのですが、ものの1週間程度で水たまりは跡形もなく乾ききり、仕方なく現実に戻ると、ネコヤナギのふわふわが木を白く覆っていて、こうして北海道に春がやってくるんだなあと思いました。



